

身近な雑かん木 (3) ヌルデ

NPO 法人自然観察大学代表 元千葉県立千葉高校 岩瀬 徹

ヌルデ、アカメガシワ、クサギはパイオニア的な雑かん木の御三家といえようが、ヌルデは複葉であることが他の2種と違う。林縁や放置された空き地、道ばたなどによく生育する。林の伐採跡に群生したりもする。

ヌルデはウルシ科であり、かつてこの樹液を塗り物に使ったなどと聞くと、何やらかぶれるような気になるが、普通の人が葉にさわったぐらいでかぶれることはない。

大まかに太い枝を分け、広がった樹形をつくる。樹皮は灰褐色で縦に赤褐色の細かいひびが入る。高さは3~4mぐらい、ときには10m近くに達することもある。根から不定芽を出して株を増やすこともする。

葉は互生し、大形で30~60cmになる。枝の

ように見えるが、1枚の葉が深く切れ込み数対の小葉に分かれた羽状複葉である。その中軸に沿って翼があり、複葉の成り立ちを考えるのによい例である。葉の付けね(葉腋)には芽ができるが、小葉の付けねに芽ができることはない。秋には紅葉するが、やがて小葉が落ち、最後に残った中軸(+葉柄)も落ち葉痕が現れる。これらから見ても中軸が茎ではないことがわかる。

8月から9月ごろ枝の先に大形の円錐形の花序をつける。花序の枝には小さい花が密集する。雄花の花序と雌花の花序は別の株につく。雄花は花弁5枚で雄しべは5本、花弁は反り返る。雌花は花弁は5枚、退化した雄しべが5本、雌しべは1個で柱頭は3個。花弁は反り返らない。果実は球形の核果で、熟すと表面に白い蠟を分泌



写真-1 若い株、葉は羽状複葉。

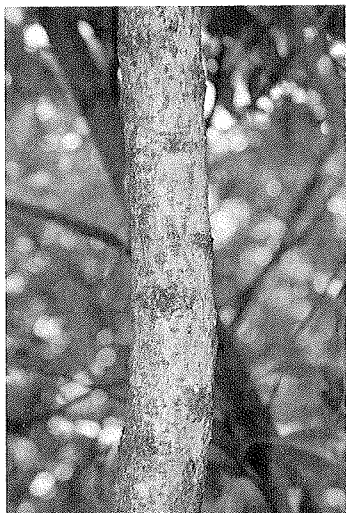


写真-2 樹形

する。これを集めて戸すべりに利用できる。

葉面に一面に虫こぶ（虫えい）ができていることがある。ヌルデフシダニなどによるものである。また葉の翼部に大きな虫こぶができてい

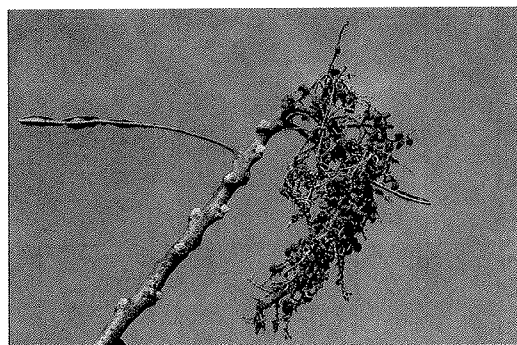
ることがある。これはヌルデシロアブラムシやヌルデノハナフシなどのアブラムシの類寄生によるもので、タンニンを多く含み五倍子といって昔はお歯黒などに利用したという。



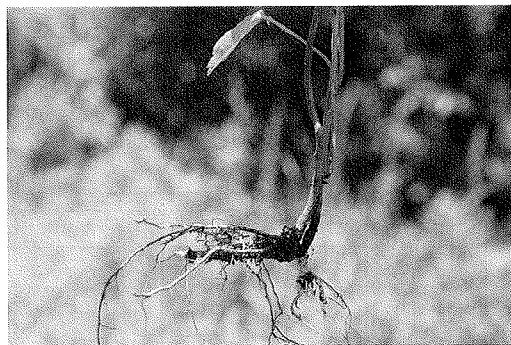
写真－3 樹皮



写真－5 雄花序



写真－7 果実の集まり。小葉が落ちた複葉の中軸も見える。



写真－4 根の不定芽から伸びた株



写真－6 雌花序



写真－8 葉面にできた虫えい（ヌルデハイボケフシといい、ヌルデフシダニの寄生による）